

BCAOアワード2021審査結果

BCAOは、事業継続計画（BCP）に関する表彰を毎年実施しています。今回は16回目となります。

特定非営利活動法人 事業継続推進機構(BCAO)は、日本の事業継続(BC)の普及に資するため、その普及、実践等に貢献した個人・団体を表彰する「BCAO アワード 2021」の受賞者を、この度、下記のとおり決定いたしました。本アワードは2006年度に創設され、今回が16回目の表彰となります。

なお、授賞式につきましては、現在もコロナ禍が収束していない状況に鑑み、オンラインを念頭に検討中です。受賞者の方の内容発表につきましては、当機構が実施するセミナーや月例オープン勉強会において、多くの方に参考にしていただけるよう内容についてご発表いただく予定です。

各賞受賞者一覧

【事業継続部門】

賞	受賞者	タイトル
大賞	AIG 損害保険株式会社	AIG 損保における BCM 強化・企業防災・中小企業強靱化取り組み
特別賞 優秀実践賞	清水建設株式会社	震災対応初動支援システム“BCP-Map”の開発と事業継続への活用
特別賞	一般社団法人 大阪ビルメンテナンス協会	「避難所衛生維持」を継続するための大阪ビルメンテナンス協会の取り組み
特別賞	ユナイテッド・インシュアランス株式会社	事業継続力強化計画策定支援から BCP 策定へ
優秀実践賞 人づくり・訓練賞	株式会社エンタープライズ山要／株式会社寝屋川興業	BCP が守る社員と市民の笑顔、繋がる未来の笑顔
優秀実践賞 人づくり・訓練賞	ナブテスコ株式会社 住環境カンパニー	実効性を重視した事業継続力強化の取り組み
優秀実践賞 企業防災賞	岩谷産業株式会社	マルキガスグループの地域防災と BCP の取組
優秀実践賞	株式会社 NPK	社内 BC 体制強化のための「BC リーダー」について
優秀実践賞	カイシン工業株式会社	令和元年台風 19 号被災体験で学んだこと、新たな BCP の取り組み
優秀実践賞	株式会社ケイ・エム・ケイ	KMK の現在地と今後の歩み ～事業継続の重要性～
優秀実践賞	株式会社 UACJ	UACJ グループ初の BCM 訓練の実施～オンラインによる複数拠点訓練

奨励賞	広島修道大学	広島修道大学 BCP 策定
奨励賞	有限会社ほり江	顧客ターゲットをずらすことによる新規顧客の獲得 ～需要蒸発を乗り越えるために目指した事業継続戦略～

(同一賞につきましては、組織名の五十音順にて記載しています)

【防災部門】

賞	受賞者	タイトル
企業防災特別賞	株式会社チャレンジ	緊急地震速報並びに実践的避難訓練の普及による地震被害の軽減

選考に当たり重視させていただいた点

【事業継続部門】

■ 大賞

タイトル	選考に当たり重視させていただいた点
AIG 損害保険株式会社	全国展開する損害保険会社である同社は、2018年の合併以前からBCPを強化してきたが、多発する自然災害を踏まえ、また、富士山噴火も含めてBCP見直しに着実に取り組んできた。人材育成では、自社社員のみならず自社系の全国の保険代理店の経営者や社員が事業継続管理者資格を取得することを促進し、合わせて約300名が取得している。保険代理店が自ら事業継続力強化計画を取得することも働きかけ、さらに、保険代理店が顧客企業に対して事業継続力強化計画の取得のサポートができるような支援も含め、事業継続の取組の普及に大きく貢献している。また、大阪府との連携協定に基づく防災貢献、津波が予想される地域の植樹活動など、地域の防災協力にも積極的に取り組んでいる。

■ 特別賞、優秀実践賞

タイトル	選考に当たり重視させていただいた点
清水建設株式会社	総合建設企業大手の同社は、気象庁からオンライン配信される推計震度分布情報をもとに全国数万棟ある自社施工済み建物について、短時間で被災可能性を推計する“BCP-Map”を開発・実装し、顧客の復旧支援に活用している。地震後10分程度で建物の被害可能性を推定し、地図システム上表示可能である。同システムにより大阪北部地震、北海道胆振東部地震、2021年2月福島県沖地震では、現地の初動体制・応援体制の確立を数時間から半日程度、短縮した。平常時の対策本部訓練でも同システムにより顧客サポート要員の「誰をどこに派遣するか」の判断に活用している。また、このシステムを手法提案として、関係学会を含め積極的に公表しており、評価を受けている。

■ 特別賞

タイトル	選考に当たり重視させていただいた点
一般社団法人 大阪ビルメンテナンス協会	大阪のビルメンテナンス企業で組織する同協会は、2018年12月国土強靱化基本法の改正において重点課題とされた「劣悪な避難生活環境、被災者の健康状態の悪化」の課題を解決すべく、自らの事務局のBCPを策定するとともに、2019年11月に大阪府と災害協定を締結し、災害時に会員企業が有効に協力できる業務として、災害発生時の避難所のトイレ清掃に焦点を絞り、余力のある最寄りの会員企業にその清掃を要請する仕組みの構築をした。また、会員企業向けに「復旧期における避難所衛生維持マニュアル」、「在宅避難マニュアル」を作成し、「避難所衛生管理BCP講座」を実施して普及啓発を行うなど、公共性、社会性の高い取り組みを行っており、業界全体への波及も期待される。
ユナイテッド・インシュアランス株式会社	損害保険代理業、生命保険募集業、各種コンサルティング業を営む同社は、自社の拠点である埼玉県を中心に中小企業、個人事業主に対し地域商工会の経営指導員と連携して「事業継続力強化計画」策定を幅広く支援している。県主催の「BCP策定セミナー」へ協力するとともに、児玉町、ふかや市、幸手市、杉戸町、宮代町などに連携活動の場を積極的に広げ、既に、短期間で多くの支援先企業が「事業継続力強化計画」認定を取得し成果をあげている。また、その活動を新聞・ラジオ等で広く広報し周知し、事業継続の取組みの啓蒙を行っている。今後の活動についても2030年までの明確な目標を立て定期的にフォローして活動を継続している点が評価される。

■ 優秀実践賞、人づくり・訓練賞

タイトル	選考にあたり重視させていただいた点
株式会社エンタープライズ山要／株式会社寝屋川興業	産業廃棄物収集運搬業、一般廃棄物収集運搬業を手掛ける両社グループは、2019年より BCP の検討に着手し、2021 年には両社がレジリエンス認証を取得した。静脈産業の産業廃棄物処理業と、エッセンシャルワーカーである一般廃棄物処理業としての供給責任を踏まえ、BC の取り組みを継続・改善し続けている。両社グループでは、事業部とは別に 6 つのチームを組成し、その一つが「BCP 災害対策委員会」であり、若手を多く含む社員主導による自律的な BC 高度化に取り組んでおり、BC の担い手の育成の取り組みとしても評価される。また、大阪府産業資源循環協会などにおけるセミナーへの登壇など、地域の同業他社に向けた BC の普及啓発にも貢献している。
ナブテスコ株式会社住環境カンパニー	同社の 6 カンパニーの一つの住環境カンパニーは、大阪湾の人工島に所在し、自動ドア、福祉機器の設計、製造、販売等を手がける主力工場の甲南工場が南海トラフ地震等に際して防災面で大きな課題を抱えていることに気づき、2013 年以降、防災と BCP に継続的に取り組んでいる。この結果、2018 年台風 21 号で生産設備の一部が水没したものの、優先製品の生産立ち上げまでの期間を当初復旧見込より大幅に短縮できた。事業継続管理者資格の取得をはじめ BCP の社内人材育成を進めるとともに、自社へのサプライヤーの BCP 取り組みを積極的に支援してきている。自社 BCP の感染症も含めた全面的な見直しや、甲南工場の代替拠点の具体的検討も評価できる。

■ 優秀実践賞、企業防災賞

タイトル	選考にあたり重視させていただいた点
岩谷産業株式会社	LP ガス供給大手の同社は、1995 年の阪神・淡路大震災を機に、全国的な LP ガス供給事業のネットワークを構築し、「MaruiGas 災害救助隊」として地震や水害等で 30 回の活動実績を有している。LP ガスを活かした災害対応のため、LP ガスを燃料とする 非常用 発電機をメーカーと共同開発し、安定供給に向けて地域と協力した訓練も継続的に取り組んでいる。また、LP ガスの可搬性を活かし、医療機関、老健施設、学校等に向けて非常時の燃料・電源として活用する提案も行っている。設備を停止時も周辺設備で補完しあう体制など、自社の BCP も有効に構築され、耐震補強や自家発電機等の設備投資を着実に実行しており、地域防災と事業継続の取り組みの両面での貢献が評価される。

■ 優秀実践賞

タイトル	選考にあたり重視させていただいた点
株式会社 NPK	警備事業、介護事業等を手掛ける同社は、東日本大震災の人道支援を実施した際に BC の必要性を認識し、2012 年に BCP の検討を開始し、BCP 策定を進め、改善を続けている。事業継続管理者資格の取得など人材育成も進めてきたが、業容拡大に伴う BC の担い手の人材づくりの課題に対処するため、2020 年より「BC リーダー制度」に着手し、研修の実施等による中核人材の育成、全社員のスキル及び意識の向上に取り組み始めている。また、関東の同業他社と「大規模災害発生時における相互協定」を締結し、合同訓練を通じて BCP の実効性向上にも取り組んでいる。さらに、本社拠点のある宮崎県において、2013 年以降セミナー等を開催するなど、地域の BC 高度化にも貢献してきた。

カイシン工業株式会社	長野県を中心に精密板金加工、精密機械加工及び金型設計製造を手がける同社は、顧客からの要請をきっかけに2012年9月にBCPを策定し、その後、工場、輸送協力会社、企画・経営の3グループに分かれた検討などによりBCM活動を継続してきた。2019年10月の台風で長野県の2つの工場が被災した際には、現地の復旧活動と並行して、協力会社の設備を借りて一部の生産活動を早期に再開するなど、他社と連携を図ることで顧客への影響を最小限に留めることができた。また、この教訓を活かし、千曲川洪水を想定した手順を新たに追加するなどのBCPの見直しを行い、これに基づいた訓練も実施して、課題の抽出や不足機材の洗い出しなどを実施している。
株式会社ケイ・エム・ケイ	熊本県を中心に工作機械を用いた部品の加工を手がける同社は、2016年の熊本地震、2017年の九州北部豪雨の被害経験も踏まえ、2019年にBCPを策定後、活動を継続し、グループ会社にも活動を展開している。2020年にも豪雨災害に見舞われ、実効的なBCPは訓練や改善を繰り返し、組織の危機対応能力を高める重要性を認識し、毎年、経営層も率先して訓練を実施し、2021年は2度行うなどBCPの課題を洗い出し、改善を重ねている。さらに、2022年10月に竣工予定の代替拠点としても位置付ける新工場は、停電対策として発電機を導入し、地域住民への避難場所としての活用も予定していること、地域の環境清掃活動や災害ボランティアへの参加など、地域への貢献も図られている。
株式会社UACJ	アルミニウム総合メーカーである同社では、合併前の2社の取組みを引き継ぎ、2018年からBCM再構築に着手し、各事業場でのBCP策定や簡易な訓練の実施を進めてきた。その中で、2021年に名古屋製造所の被災を想定し、事業本部と他製造所、東京の本社の連携によるBCPの検証訓練をした。訓練事務局自らが企画し、訓練をモニタリングするためオンラインツールを活用し、経営層や事業本部に対応を可視化し、海外を含むグループ会社も傍聴する中で、実効性の検証や経営層が認識すべき課題の抽出に結びつけた。さらに、訓練に参加しないグループ会社のBCP拡充や訓練の実施に結びつけるなど、グループ全体の事業継続力の強化に結びつけた点も実践事例として評価できる。

■ 奨励賞

タイトル	選考にあたり重視させていただいた点
広島修道大学	広島私立大学である同大学は、水害、風害、地震などの経験から、災害発生時の迅速な判断対応、継続的な対応の必要性を認識し、先行する他大学の事例を参考にBCPを策定した。危機管理責任者である副学長をリーダーとするBCP検討チームを組成して、先行事例で有効とみられた目標時間と実施項目を簡潔に記載するアクションファイルも活用したBCPとなっている。2022年度には、BCP第1版をもとに発災後の初動対応や防火・防災訓練の実施を行い、課題をBCに反映するとともに、教職員・学生への防災意識の醸成と事業継続の重要性の共有を行う予定となっており、今後の取組みの発展に期待できる。
有限会社ほり江	島根県で結婚式場を運営する同社は、新型コロナウイルス感染症の影響で、予定されていた結婚式の多くが中止・延期となり、件数で6割減、売上で3割程度となった。そこで、関係の金融機関、経済団体等の支援のもと、結婚前のカップルを対象とするエンゲージウェディング(婚約式)サービスに着手した。本サービスは、新規需要を掘り起こし、その後結婚式へ誘導していくことも視野に、出雲大社を始め観光地として人気のある地域特性を生かした需要急減下の事業継続戦略として注目される。今後、本サービスのためのモニュメントの完成、オープニングイベントの実施も予定されており、事業の発展に期待できる。

(同一賞につきましても、組織名の五十音順にて記載しています)

【防災部門】

■ 企業防災特別賞

タイトル	選考にあたり重視させていただいた点
株式会社チャレンジ	緊急地震速報装置EQガードの開発・販売を行う同社は、学校・病院・福祉施設・民間企業工場等に避難・安全確保、機器装置の安全な停止に有効な同製品を約1,000カ所に設置した実績を有し、地震発生時の緊急避難計画の策定も支援している。2007年には、公立小学校の協力を得て実践的避難マニュアルを作成して避難訓練を実施し、成果を新聞等に積極的に発表し全国の学校への普及に尽力した。さらに、JETRO、外国政府、国際機関と連携して、開発途上国の病院や学校などの重要施設での緊急地震速報の導入とそれに基づく地震防災教育の普及に貢献している。海外にも力を入れた有効で特徴ある防災支援活動として評価される。

BCAO アワード選考委員会では、2021年11月15日（月）～2022年3月15日（火）の募集期間に応募があったものについて、次の観点から厳正なる審査を行いました。

◆選考方法、基準等

○事業継続部門：趣旨に記載した表彰対象の内容について、

- ・ BCの普及に向け社会的に最も影響が大きいと判断されたものを「大賞」
- ・ 優れた取組みで特に見るべき特徴のあるものを「特別賞」
- ・ 優秀なBCPの策定・BCMの実施で範となるものを「優秀実践賞」
- ・ BCのための人づくり、訓練の手法の紹介や実践事例で優れたものを「人づくり・訓練賞」
- ・ 今後の取組みに期待できるものを「奨励賞」

とします。BCに関わる成果を広く知らしめることを重視するため、公表履歴の多いものをより評価しますが、実践の場合にはこの限りではありません。

○防災部門：企業や企業を中心とする地域の防災への取組で

- ・ 特に見るべきものがあると評価されるものを「企業防災特別賞」とします。